

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚和乎事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org

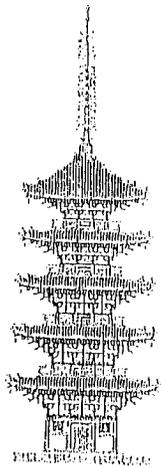
皆さん、残暑お見舞申し上げます。お盆が明けてもまだまだ暑い日が続きますね。しかし、立秋も過ぎ、暦の上ではすでに秋です。まもなく九月、お月見の季節になりますね。

## ★お月見と縁の深い覚王山

以前にも、このかわら版でご紹介させて頂きましたが、覚王山周辺には**月見坂町**や**観月町**といった「月」が入っている地名が残っています。

平地の多い名古屋の中で、覚王山周辺は際立って小高い丘になっており、江戸時代にはお月見の名所だったそうです。その名残が地名に残っているようです。

今月は**満月が二度ある珍しい月**です。**満月の周期は二十九・五日**ですから、ひと月のうちに満月が二回見られることは滅多にありません。今月はたまたま一日と三十日が満月に当たります。



ちなみに、今年の「中秋の名月」、つまり**旧暦の八月十五日は九月二十****八日**だそうです。今年の「中秋の名月」は、覚王山界隈で弘法大師を偲びながらのお月見はいかがですか。



月見坂町で月を眺める人々  
(江戸時代の絵)

## ★満月と弘法大師

弘法大師を偲びながら、どうして?と思われる読者の方が多いかもしれませんね。実は、**弘法大師の誕生日は旧暦の六月十五日**、この日も**満月の夜**でした。

暦に詳しい読者の皆さんはご存じのことと思いますが、**旧暦(太陰暦)**は**月齢**に対応しますので、**毎月十五日**は**だいたい満月**に当たります。

したがって、今月一日が旧暦六月十五日（弘法大師誕生日）、三十日は同七月十五日（旧盆）、来月二十八日が同八月十五日（中秋の名月）となるわけです。

余談ですが、旧暦では年初から**三か月ごと**に春夏秋冬となります。したがって、七、八、九月は秋であり、旧暦八月十五日は**秋の真ん中**だから、中秋の名月となります。

「そんなこと知っとるがね」というお声が聞こえてきそうです。たいへん失礼致しました。

### ★覚王山満月巡礼

こうして覚王山とお月見の関係、弘法大師と満月の関係を調べてみると、何だか不思議な気がしてきます。

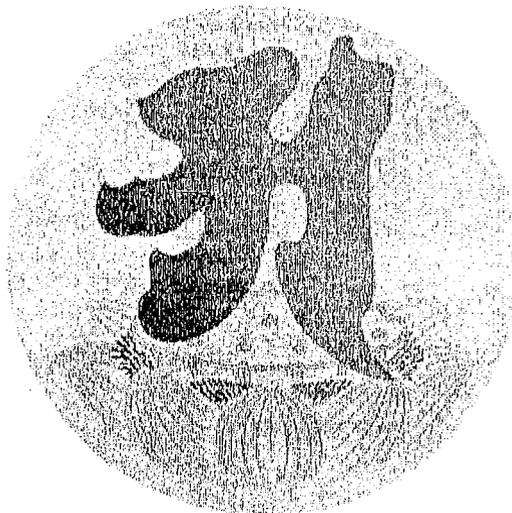
四国八十八カ所霊場の**日本最小の「写し」**である**覚王山八十八カ所霊場**ですが、満月と絡めた巡礼行事なども工夫できそうですね。

旧暦の毎月十五日（弘法大師の月命日）の夜に覚王山で弘法大師を偲んで一杯やる（不謹慎かも・）ことを「**覚王山満月巡礼**」などと命名してはいかがでしょうか。**参道名物のみだらし**を満月に見立てて食べるのも一興です。



### ★月と高野山

旧盆と満月が重なる今月三十日には、弘法大師が開山した高野山金剛峯寺では「**月と高野山**」という催し物が開催されます。記念コンサートや、**満月と縁の深い瞑想法**である**阿字観**（あじかん）の実習体験も行われるそうです。この瞑想法を体得すると、心の雲が晴れて満月が表れ、澄み切った気持ちになれると言われています。



阿字観本尊

### ★お詫びと訂正

かわら版第二十四号（六月号）では、**愛知の七福神巡礼**をご紹介させていただきました。その中で、**尾張七福神**の所在地を**甚目寺町**としておりましたが、正しくは**祖父江町**であり、**甚目寺町**にあるのは**尾張四観音**であることが分かりました。ご教示頂きました読者の方に御礼申し上げます。お詫びして訂正させていただきます。